

第2回 湖西市定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

開催日時	平成25年8月27日(火)午後6:30~午後8:00
開催場所	湖西市役所2階 市長公室
委員	(出席者) 10人 (欠席者) 1人 (事務局) 3人
内 容	
1 事務局のあいさつ	
2 議題	
(1) 定住自立圏共生ビジョン(案)について	
①委員の意見一覧について、事務局が説明	
(質疑応答)	
委員	人口の推移について、ここで協議して良いプランを策定しても平成52年には19.3%減ってしまうのか。
事務局	この人口推計自体が国勢調査の結果を基に推計を出している。例えば直近では平成27年に国勢調査があるが、この数値が変わってくると今後19.3%という数値も変わってくるかと思う。現状の平成22年までの実績を基に算定したものは19.3%で固定される。人口問題研究所で出している現時点での人口推計は変わらない。 現況とそれに基づく国の機関が出している数値を載せていて、目標人口を掲載しているわけではない。総合計画では政策を反映して、減少率を下げたりしている。
委員	結果だけを見ていくような形だと、調査によって「これだけになりました」ということだけでよいのか疑問。方策を絞っておいたほうがよいのでは。減少しない為に、何をすべきかが出てくると良いのでは。
事務局	課題として認識しておく。
②具体的な取り組みについて、事務局が説明	
(質疑応答)	
委員	取組事項ア医療の、生活習慣病までの事業だが、すでに市で実施している事業の予算に、補助金をさらに追加するということなのか。
事務局	定住自立圏を取り組むことによって国から財源措置がされるが、その財源を新

たに今まで行っていた事業に加担するというものではなく、あくまでも国からの財政措置ということで、1年4千万円、5年間で2億円の補助が国から受けられる。

委員：取組事項イ福祉の、デイサービスセンター建設費借入金償還費補助の話は聞いていないが、どこから出てきた話なのか。デイサービスセンターを新たに作るのか。

事務局：新たにデイサービスセンターを作るわけではなく、既存の事業であり、既存の施設に出している補助金である。

委員：新設の事業はあるのか。平成25年から始めたものはあるのか。

事務局：平成25度に予算計上した事業で、基本は継続事業である。平成25年度から開始した事業はない。平成26年以降は新規事業が入る可能性はある。

委員：No.28の地域公共交通の確保と効率的な運用について、すでに平成25年4月から5月まで無料で試験的にコミュニティバスを走らせているが、実際に見直されたということではなくて、そのまま同じ地域を回っている。実際自分も見ているが人が全く乗っていない。なぜ乗らないのか検証したところ、運賃は安いが乗り換えて次のバス停で待つ時間が長く、暑くて待ってられないという意見が多かった。もし平成25年度のままでのコミュニティバス事業を行っていても、必ず、効率性もなく利便性もなく、不満だけが残るだけ。高齢者から、今の利用の仕方を検証して欲しいという訴えがある。効率・利便性を含めて今の運用の仕方を考えて欲しい。地域差が出てきているのも不満の1つにある。

事務局：コミュニティバスについては、見直しをして4月から従来の運用になっている。ご利用対象の方の声を上げていただいて、反映していきたい。すでに2路線の一部を直している。抜本的な見直しは、1年間の様子を見て声を聞いた中で見直しをしていく。

委員：ごみの焼却について、市独自にはならないのか。

事務局：今は浜松市に委託という考えでいる。なので、ごみを減らしていきたい。湖西市にある施設は現在使っていないわけではなく、燃やす部分だけが使われていない。実際、粗大ごみや家庭のごみは現在でも持ち込まれている。

委員：最終処分場はどうなっているのか。

事務局：十分処理できる状態で、心配はないと聞いている。

委員：新居関所の門を作るのか。

事務局：平成28年度までには門だけではなく長屋なども含めた大規模な復元していく。

委員：関所周辺の道路整備が行われているが、関所周辺もだがそれ以外でも大きな木がやたらと切られていて、歩行者、自転車の人にとっては暑くて大変。暑くて100メートル歩くことが厳しいという話を聞く。そういったことも観光の減少や地区交流の減少につながっているのでは。

関所を中心として、と言っても駐車場が限られているので、関所周辺の施設を利用して催し物を開催しようとしてもできない。自動車の誘導、歩行者の誘導をどうするのか考えていただきたい。

委員：No.14の6次産業化への支援及び地域ブランドの発掘について、アサリが取れていないので、今後アサリの補助も対象になるのか。

事務局：小さいアサリを撒くというのは、以前から行っている。

委員：水質の変化などで、3年ほどアサリが取れていなくて、今年の夏は潮干狩りができず観光が大打撃を受けた。湖西市だけではなく、周辺市で協力して浜名湖の水質保全に力を入れてもらいたい。

委員：アサリの稚貝を撒くのに、稚貝自体が取れない。ここ3年稚貝を購入できてない。現実的に稚貝を撒くのが不可能な状態。新居は3年前から潮干狩りができなくなっている。稚貝を買って撒くという事業ではなく、稚貝を育てるという新たな事業にシフトしたほうがよいのでは。

委員：海で取れないなら、陸の空いた所で育てられないか。

委員：舞阪漁港では試験的にアサリの稚貝を育てている。湖西市でもアサリを育てる取り組みをしたほうがよい。

委員：漁協の新居支所で研究は始めている。

委員：農業振興では、イノシシが南下してきている。遊休農地の所有者が亡くなって、息子、娘が市外にいるため連絡できない。草を刈りたいのに刈ることもできない。

委員：湖西市では、休耕地は農業にしか使えないのが問題。TPPが始まって農業では儲からない。

委員：法人が始まっているが。

委員長：建設業が参入している。

委員：防災に力を入れていただきたい。女性消防団はがんばっている。

委員：区画整理事業は終わりなのか。

事務局：現在、具体的な民間や公共の区画整理事業の予定はない。

委員：住む所を増やしていかなければならない。夜間人口が減少しているのは、住みたいという人が増えていない。積極的に区画整理を計画すべき
別紙4の27ページ、B級グルメは昨年で終了している。

事務局：削除しておく。

委員：高齢者バス利用について、浜松市では公共交通のない所でどうするのか問題になっていた。ガソリン代を出すなどしている。

公共交通の最低保障、基準を考えておいたほうがよい。市の方針を持っておいた方がよい。

防災の面で、ハード的な整備、避難タワーを作る事で市民の意識高揚につなが

る。

事務局：現在、地域防災計画の見直しをしている。今後、ビジョンの取り組みの中に追加されることもある。

委員：企業立地促進事業の計画で数字がのっているが、予算が計上されているのに使われていないものはないのか。そのまま載せられているのはよくない。企業立地促進事業は使われているのか、他から人を呼ぶくらいの策がないと定住は難しい。平成23、24年にどれくらい使われていたのか。

事務局：25年度以前からの継続事業があり、予算を使わないことはない。市内の事業者でも、あらたに事業を拡大して土地を購入するのであれば対象になる。23、24年の数字は持ち合わせていない。

(2) 今後のスケジュールについて、事務局が説明

事務局：意見があれば市に意見票を提出してほしい。9月13日締め切り。担当課には懇談会の開催内容等を情報提供する。

委員長：10月中にビジョンの策定を目指している。

4 事項連絡